

Ⅲ. 南区の将来像とまちづくりの目標

1. 南区の将来像

南区は、住宅と商業・業務や工業等の様々な個性ある地域が共存する市街地として発展してきました。区内には、2つの鉄道路線、8つの駅があります。駅周辺や旧「吉田新田」区域、幹線道路沿道は、商業施設や業務施設、工場などが集まる利便性の高い生活の拠点となっています。また、丘陵部は、様々な住宅が集まる暮らしの環境が形成されてきました。近年のまちづくりにおいては、防災性の向上や水と緑の環境の充実など、地域特性に応じた住環境の整備や魅力づくりが進んでいます。成長期から成熟期へとまちづくりが転換していく今後は、子ども、高齢者、障害者、単身生活者、外国人など、居住者の多様性への配慮や、施設の適切な維持管理等、暮らしの質の維持・向上を進めていくことが求められます。

また、南区には、下町らしい人情味あふれる人と人のつながりがあり、「南の風はあったかい」というキャッチフレーズに表現された、豊かな地域のコミュニティ*が感じられる暮らしが浸透しています。

このような状況を踏まえつつ、平成16年の南区プランにおいて策定された南区の将来像

～人の情（こころ）と都市の機能が共に成熟したまち～

を、引き続き継承します。

南区の魅力をかたちづくっている様々な都市の機能の調和を図り、住む人、働く人、訪れる人など、様々な人を惹きつけながら、人の情、都市の機能を共に成熟させ、将来の世代に受け継いでいける活力あるまちづくりを進めていきます。

【コラム】南区に根付く下町らしさ

南区には下町らしい近所づきあいの場が地域に根付いています。路地や軒先には自然と人の交流が生まれ、行き交う人たちが挨拶をかわし、よその子にも声をかけ、散歩中の御老人の体調を気遣う、そんな良好なコミュニティ*が育まれてきました。また、様々な生業、寺社や祭りなど、古くからの歴史や伝統、文化が引き継がれており、懐かしさと、温かみのある地域性が受け継がれています。こうした地域性を生かし、まちづくりが成熟期に転換していく今後は、南区の下町らしいコミュニティ*を生かしたまちづくりを進めていくことが求められます。



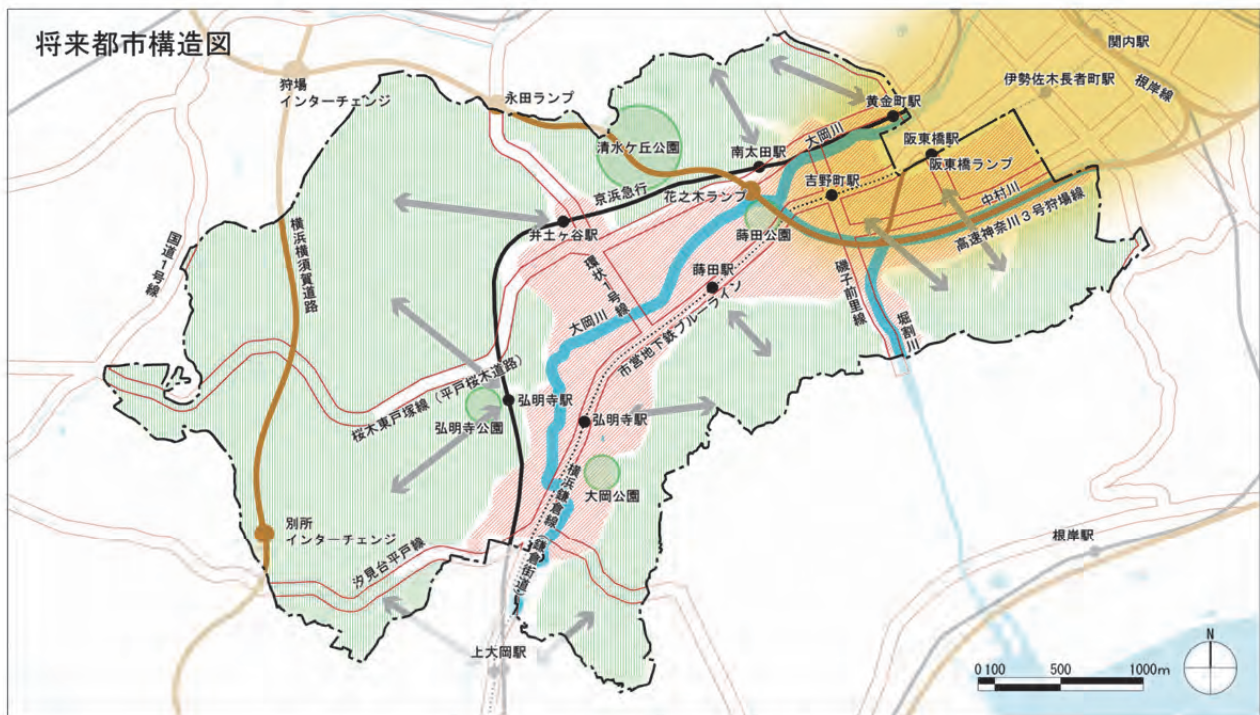
2. 南区の将来都市構造

都市計画マスタープラン全体構想では、関内方面から続く都心部として旧「吉田新田」区域が位置づけられており、旧「吉田新田」区域以外の地域はおおむね、都心部と郊外部の間の都心・臨海周辺部とされています。旧「吉田新田」区域から平地部が大岡川沿いに広がり、その平地部を丘陵部が取り囲み、地形的な面での一体感を形成しています。

大岡川や中村川、堀割川は、水と緑の軸として魅力を生み出し、丘陵部のほとんどは市街地をのぞむ丘の軸として、広域的な緑の軸に位置づけられています。

郊外部各地と都心部を結ぶ鉄道や道路などの交通網は、平地部を抜けて横断しており、旧「吉田新田」区域や駅周辺、主要な道路沿いに集積している商業・業務機能とともに、利便性の高い暮らしの場を支えています。

このような現在の都市構造を継承しつつ、区内各地域間の移動を維持・充実することで、持続可能な都市機能を強化していきます。



	道路ネットワーク 幹線道路等の体系的なネットワークによる円滑な交通の維持・改善をはかるとともに、区内及び周辺市街地相互の連絡機能を強化します。		丘陵部
	歩行空間・地域交通のネットワーク 区内の駅商店街等へつながる歩行空間の改善や、身近な交通による環境に優しい移動手段の維持・充実により移動の利便性や快適性を高めるとともに「平地部」と「丘陵部」との連携を強化します。		平地部
	水と緑の軸 大岡川、中村川、堀割川の水と緑が感じられる環境づくりや改善を進めながら、歴史・文化や賑わいなど、南区の魅力を生かしたプロムナードを維持・保全、充実していきます。		区界
	都心部 職住近接の実現や、利用者の圏域の規模・地域特性に応じた機能集積・充実、水と緑の活用など、都心との近接性を生かした市街地として形成をはかります。		鉄道
			地下鉄
			自動車専用道路

3. まちづくりの目標

南区のまちづくりの将来像を実現するため、南区プランでは、今後20年を目途に区民、事業者、行政の協働*のもとに進めるまちづくりの目標として、次の4つを掲げます。

目標1. 身近な環境から、安全で住みやすいまちづくりを進める

- 地震では、建物の倒壊や火災等の被害が想定されます。そのような震災をはじめとして、津波災害、都市型水害*、土砂災害などの大規模な災害に備え、建物の不燃化・耐震化、木造住宅密集市街地*など地域の環境改善や都市基盤の適切な更新を進めることで、災害に強い、持続可能なまちづくり*を推進します。
- 地域や家庭の災害への備えの強化、助け合い体制の確立、事業者等と協力した防災・減災対策を推進し、被災時の被害拡大を抑制し、速やかに復旧できる体制を構築していきます。
- 犯罪の防止、交通安全対策を進めることにより、安心・安全な地域の住環境を整えていきます。

目標2. 徒歩でも、バスでも、楽しく移動できるまちをつくる

- 道路の適切な維持管理や基盤整備により円滑な交通を確保していきます。また、狭あい道路*の拡幅、沿道の不燃化・耐震化等による、災害に強い交通環境づくりを進めます。
- 安全に移動できる歩行者空間の整備、今後の社会状況の変化や適正な需要を踏まえた身近な交通の維持・充実、駅とその周辺などのバリアフリー化*等を進め、子どもから高齢者、障害者など、誰もが楽しく快適に移動できる環境をつくります。

目標3. あの手この手で身近な自然を守り、創造する

- 残された自然の保全を図るとともに、身近な生活の中で水と緑の環境のうるおいが感じられるまちづくり、次世代に引き継いでいきます。
- 快適な暮らしの環境づくりとして、身近に自然が感じられる歩行空間づくりや周辺景観の向上等を推進します。
- 効率的なエネルギー利用や3R*の推進、ヒートアイランド*対策、水循環への配慮等、地球温暖化*防止や都市環境問題などに取り組み、環境にやさしいまちを目指します。

目標4. 引き継がれた地域資源を生かし、地域の魅力を育む

- 南区に引き継がれてきた、様々な人・まちの魅力を、まちづくりの貴重な資源として活用し、ふれあいと安らぎのある、活力あふれるまちづくりを推進します。
- 地域の課題に住民が自ら取り組む、地域主体のまちづくりを支援することにより、子ども、高齢者、障害者、外国人など、誰もが安心して暮らせる環境づくりを進めます。